

### (9) ホームレスも高齢化、60歳以上で増加傾向

平成24（2012）年のホームレスの年齢構成を19（2007）年と比較すると、平均年齢は59.3歳で前回より1.8歳上昇した。年齢分布をみても60歳以上が全体の半分以上（55.2%）を占めており、このうち60～69歳は42.3%で前回より7.5ポイント増加、70歳以上は12.9%で前回より5.5ポイント増加しており、ホームレスの高齢化が進んでいる（図1-2-2-15）。

## 3 高齢者の健康・福祉

### (1) 高齢者の健康

#### ア 高齢者の半数近くが何らかの自覚症状を訴えているが、日常生活に影響がある人は5分の1程度

65歳以上の高齢者の健康状態についてみると、平成22（2010）年における有訴者率（人口1,000人当たりの「ここ数日、病気やけが等で自覚症状のある者（入院者を除く）」の数）は471.1と半数近くの人が何らかの自覚症状を訴えている。

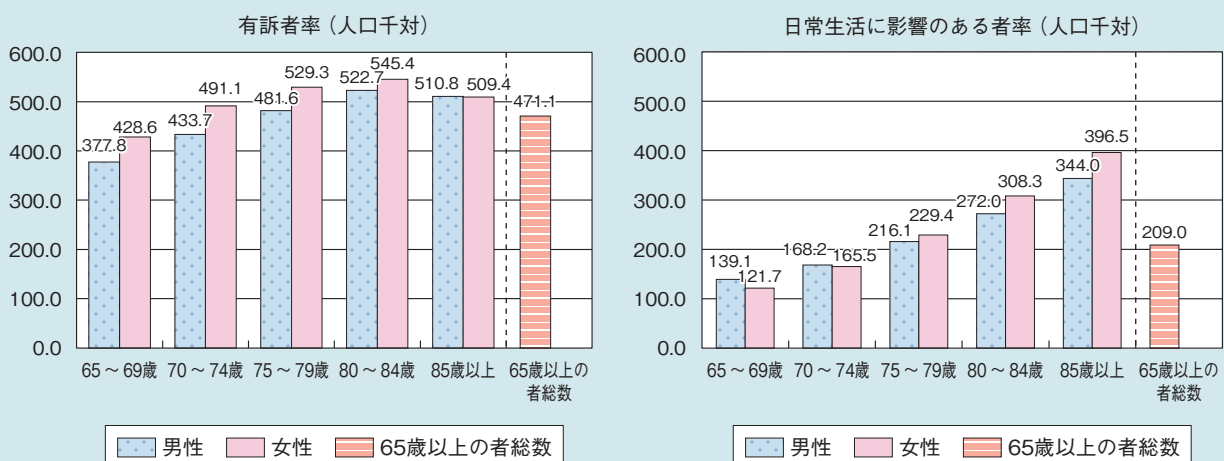
一方、65歳以上の高齢者の日常生活に影響

のある者率（人口1,000人当たりの「現在、健康上の問題で、日常生活動作、外出、仕事、家事、学業、運動等に影響のある者（入院者を除く）」の数）は、22（2010）年において209.0と、有訴者率と比べると半分以下になっている。これを年齢階級別、男女別にみると、年齢層が高いほど上昇し、また、70歳代後半以降の年齢層において女性が男性を上回っている（図1-2-3-1）。

この日常生活への影響を内容別にみると、高齢者では、「日常生活動作」（起床、衣服着脱、食事、入浴など）が人口1,000人当たり100.6、「外出」が同90.5と高くなっており、次いで「仕事・家事・学業」が同79.6、「運動（スポーツを含む）」が同64.5となっている（図1-2-3-2）。

また、現在の健康状態に関する意識を年齢階級別にみてみると、高齢になるにしたがって、健康状態が「よい」、「まあよい」とする人の割合が下がり、「よくない」、「あまりよくない」とする人の割合が上がる傾向にある（図1-2-3-3）。

図1-2-3-1 65歳以上の高齢者の有訴者率及び日常生活に影響のある者率（人口千対）



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成22年）